

令和3年度研究推進計画

海田町立海田西小学校

1 研究主題

主体的に学びを深める児童の育成
～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～

2 研究主題設定の理由

学習指導要領では、「生きて働く『知識・技能』『未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』『学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』を一人一人の子供に育成していくことが示されている。

これまで本校では、平成25年度から、児童に思考力・判断力・表現力をつけることをねらいとして、NIEの実践に継続して取り組んできている。また、昨年度は、研究主題を「主体的に学びを深める児童の育成～「見通し」「協働」「振り返り」を効果的に設定した授業づくりを通して～」に設定し、国語科を中心として各教科等とNIEの関連を図り、児童が、自分の考えを再構築し、自信をもって表現できることを目指してきた。具体的には、「見通し」「協働」「振り返り」を授業の軸として、全学級で単元開発を行うとともに、基礎的基本的な知識・技能の定着と振り返りの設定、書くことを重視した授業づくり、NIEの質の向上の3点に重点を置いて研究を進めてきた。これらの取組により、学習の見通しをもって課題解決を図り、双方向の意見交流で思考を深めたり、広げたりする姿が見られるようになった。また、情報から自分の考えを再構築し、1人1人または学級の「1つのストーリー」を作り、表現する姿も見られるようになってきた。しかし、児童が、学習課題の必然性を見出し、主体的に課題解決することや、学習活動を自己の生き方につなげること等においては、課題が残った。

本年度から3年間、本校は、広島県教育委員会より「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受けており、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元を開発・実践を行う。本校の現状としては、児童の実態に合わせた実践を重ねてきているものの、例年、単元が固定化し、活動が形骸化している面がある。また、地域資源（人材や文化、素材等）の把握が十分ではなく、授業に活用しきれていない面も見られる。

そこで、本年度は、昨年度までの取組や本校の児童の実態、これからの社会に求められる力を踏まえた上で、研究主題を「主体的に学びを深める児童の育成～探究的な学習の単元開発・実践・改善を通して～」とした。本校児童の実態、地域の特徴を踏まえて、実社会や実生活の中から問いを見出し、「課題発見・解決学習」のサイクルを経て、自らの考えや課題を更新できる単元を構想していく。この探究的な学習の中で、問題意識が揺さぶられて取組が真剣になる、身に付けた知識及び技能の有用性を実感する、自分の成長を自覚したり自己の生き方を考えたりする等の学びの姿が見られるようになるだろう。そして、自分ごとの課題を、自分の力で解決し、その過程と成果を自覚することを繰り返しながら、児童自身が自らの学びをコントロールできるようになることは、西中校区で目指す資質・能力「主体性」「コミュニケーション力」「メタ認知」の育成につながるものと考えている。

以上のことから、学校教育目標「夢と志を持ち よりよく生きようとする児童の育成」に基づき、「最善解を考え、実行できる西っ子」を育成することができると考え、本主題を設定した。

3 研究仮説

PBL（プロジェクト型学習）の考え方をもとにした、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践において、主体的な学びを実現させるという視点に立って、実社会や実生活と関わる真正の学びに取り組み、教科等における学習や体験等を効果的に関連させ、最善解を考え、実行できる子どもを育成することができるだろう。

4 研究内容

1年目	2年目	3年目
<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの理論研修 ○育成を目指す資質・能力を設定 ○PBLの考えを参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践（各学年1単位以上） ○実践をまとめたリーフレット作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック試案 ○NIEや図書、タブレット等の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの実践交流 ○育成を目指す資質・能力の検証 ○探究的な学習についての、指導過程、指導（学習）方法、発問等についての授業研究（各学年1単位以上） ○実践をまとめたリーフレット作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック検証 ○NIEや図書、タブレット等の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの実践報告（HP等） ○育成を目指す資質・能力の改善 ○PBLの考えを参考に、生活科及び総合的な学習の時間の単元開発・実践・改善（各学年1単位以上） ○域外に普及するためのリーフレット作成 ○育成を目指す資質・能力を評価するルーブリック改善 ○NIEや図書、タブレット等の効果的な活用

5 検証計画について

指標	達成目標			検証時期	検証方法
	1年目	2年目	3年目		
児童・生徒の授業満足度	80%以上	85%以上	90%以上	2月	質問紙調査 個の変容
探究のプロセスを意識した児童・生徒の割合	80%以上	85%以上	90%以上	2月	質問紙調査 ポートフォリオの活用
単元計画の開発・実践	1単元以上	1単元以上	1単元以上	2月	成果物

6 校内研修計画について

月	日	研修【内容】(授業者)
4月	16日	校内研修【方向性の共有】
5月	28日	海田町探究的な学習の在り方に関する研究推進協議会及び3校合同研修会【理論研修】
6月	29日	ブロック研修【なかよし 自立活動授業研究】(津村教諭)
7月	6日	ブロック研修【通級指導教室 生活単元学習授業研究】(砂山教諭)
	13日	ブロック研修【日本語学級 国語科授業研究】(松岡教諭)
8月	未定	学習指導案作成
9月	未定	ブロック研修【第3学年 総合的な学習の時間授業研究】(入澤教諭)
10月	未定	ブロック研修【第2学年 生活科授業研究】(石原教諭)
	未定	ブロック研修【第4学年 総合的な学習の時間授業研究】(山縣教諭)
11月	5日	学習発表会
	未定	ブロック研修【第6学年 総合的な学習の時間授業研究】(大野教諭)
	17日	校内全体研修兼県中堅教諭等資質向上研修【第5学年 体育科授業研究】(中川教諭)
	26日	海田町探究的な学習の在り方に関する研究推進協議会及び校内全体研修【授業研究, 研究協議会】(T1 藤井教諭, T2 中川教諭)
1月	未定	ブロック研修【第1学年 生活科授業研究】(野崎教諭)
2月	8日	ブロック研修【にこにこ 生活単元学習授業研究】(原教諭)
3月	未定	今年度研究のまとめ

【授業研究について】

- ・全教諭1人1回以上, 研究主題に沿う学習指導案を作成して授業研究を行う。
- ・研究授業後は, 事後研修での意見交流を参考にして改善指導案を作成し, HP上に公開する。
- ・「ブロック研修」「全体研修」の持ち方は, 次のようにする。

【ブロック研修での授業研究の持ち方について】

- ・低学年ブロック(野崎, 石原, 吉岡), 中学年ブロック(入澤, 山縣, 須山), 高学年ブロック(中川, 大野, 藤井), 特別支援ブロック(原, 津村, 砂山, 松岡)で随時, 研鑽を積む。
- ・授業研究は, 原則, 総合的な学習の時間または生活科を行う。ただし, 専科や特別支援学級, 他研修と兼ねる場合等については, 研究主題に沿うものであれば教科を問わない。
- ・参加者は, ブロック内の教員, 管理職, その他希望者とする。
- ・各ブロックで事前に指導案検討及び事後研修を行う。
- ・授業後には, 成果と課題を明確にして記録し, 担当者に提出する。

【全体研修の持ち方について】

- ・研究授業を行う学級以外の児童下校後, 研究授業と協議を行う。
- ・参加者は, 基本, 全教員とする。
- ・協議会の会場設営, 記録写真については, 教務部で行う。

【学習発表会について】

- ・11月5日に行う。
- ・生活科及び総合的な学習の時間で学習した内容を他学年や地域に発信する場とする。